

2020年3月9日発表

報道関係 文化・音楽ご担当者
音楽ジャーナリスト／関係者 各位

**音楽監督ジョナサン・ノット&東京交響楽団、東響コーラス
第32回ミュージック・ペンクラブ音楽賞 W受賞
クラシック部門「オペラ・オーケストラ部門」賞、「室内楽・合唱部門」賞**

このたび、音楽監督ジョナサン・ノット&東京交響楽団が第32回ミュージック・ペンクラブ音楽賞クラシック部門「オペラ・オーケストラ部門」賞を、東響コーラスが「室内楽・合唱部門」賞を受賞しました。

当団は2008年、同音楽賞クラシック部門コンサート・パフォーマンス賞（日本人アーティスト）、2009年クラシック部門録音・録画作品賞（日本人アーティスト）、2018年優秀録音作品賞（オーディオ部門）に続く4度目の受賞、東響コーラスはアマチュア団体として同賞では初の受賞です。授賞式は4月22日に行われます。

受賞理由 ジョナサン・ノット（指揮） / 東京交響楽団（管弦楽）

『東京交響楽団と音楽監督ジョナサン・ノットとのコンビは、2014年9月以来、6シーズン目を迎えている。アンサンブルの精度、澄明な響きなど演奏水準の向上と安定に加えて、意欲的で刺激的、そしてツボを抑えた選曲と構成により、発見と感激をもたらすコンサートを、いくつも実現している。リゲティなどの20世紀作品を、19世紀の人気曲や17世紀の古い音楽と巧みに組みあわせて新鮮な驚きをもたらす一方、エルガーの《ゲロンティアスの夢》やシェーンベルクの《グレの歌》のような合唱つきの大曲、モーツァルトのオペラなどでも見事な成果をあげた。ラフマニノフの交響曲第2番の超絶的名演も忘れがたい。これからもさらなる躍進と深化に期待する。

（山崎浩太郎氏）』

受賞理由 東響コーラス

『東響コーラスは、1987年、当時の楽団長金山茂人の発案で、「東京交響楽団と一体の演奏をし、質の高い合唱付きオーケストラ曲のコンサートを提供する」ことを目的とし、東京交響楽団専属のアマチュア混声合唱団として創立された。公演毎に出演者決定オーディションを実施すること、演奏曲ごとに適した指導者を起用すること、団費、入会金、チケットノルマ無し、そしてほとんどの曲を暗譜で演奏することが運営の特色である。オーケストラがこのように質の高い専属合唱団を有することは、指揮者にとって望ましいことであり、桂冠指揮者秋山和慶によるシェーンベルクの歌劇《モーゼとアロン》の邦人初演（1994

[HEAD OFFICE]

2-23-5 HYAKUNIN-CHO
SHINJUKU-KU
TOKYO 169-0073 JAPAN
Phone +81 (0)3-3362-6764 Fax +81 (0)3-3360-8249

[KAWASAKI OFFICE]

MUZA KAWASAKI CENTRAL TOWER 5F
1310 OMIYA-CHO SAIWAI-KU KAWASAKI-SHI
KANAGAWA 212-8554 JAPAN
Phone +81 (0)44-520-1518 Fax +81 (0)44-543-1488

年)、オラトリオ《ヤコブの梯子》の日本初演（1997年）などの意欲的なプログラミングを可能とした。2019年10月、ミュゼ川崎シンフォニーホール開館15周年記念公演は音楽監督ジョナサン・ノット指揮によるシェーンベルクの《グレの歌》で大成功を収めたが、この難曲をすでに複数回上演してきた歴史そのものも特筆に値し、本賞の授賞にふさわしい。（樋口隆一氏）』

<音楽監督ジョナサン・ノット&東京交響楽団、東響コーラス 次回公演予定>

■東京オペラシティシリーズ第114回

2020年4月18日（土）2:00p.m.

東京オペラシティコンサートホール

■第679回定期演奏会

2020年4月25日（土）6:00p.m. サントリーホール

■川崎定期演奏会第75回

2020年4月26日（日）2:00p.m. ミュゼ川崎

指揮：ジョナサン・ノット

ヴァイオリン：辻 彩奈

指揮：ジョナサン・ノット バスバリトン：ニール・

デイヴィス 合唱：東響コーラス

ストラヴィンスキー：バレエ音楽「カルタ遊び」

酒井健治：ヴァイオリン協奏曲「G線上で」

ベートーヴェン：交響曲 第2番

藤倉 大：海

エルガー：エニグマ変奏曲

ウォルトン：オラトリオ「ベルシャザールの饗宴」

【お問合せ】

公益財団法人東京交響楽団 広報本部 TEL: 044-520-1518

高瀬 takase@tokyosymphony.com 伊藤 ito@tokyosymphony.com